

**平成26年度  
(2014年度)**

**運営に関する計画  
(最終評価)**

**大阪市立矢田西中学校**

## 大阪市立矢田西中学校 平成 26 年度 運営に関する計画・自己評価（総括シート）

## 1 学校運営の中期目標

**現 状 と 課 題**

本校は、就学援助受給率が約 6 割と経済的に家庭環境が厳しい生徒が多く在籍しており、家庭での学習習慣が身についていない生徒もいる。このような状況の中で、「確かな学力」をはぐくむために、生徒の実態に沿ったきめ細かな授業を実施し、基礎学力の定着、応用力の育成を図っている。全国学力・学習状況調査や学力診断テスト等において、徐々に効果が表れつつあるものの、まだ基礎・基本の定着が不十分な生徒の割合が多い。さらに今後も、より効果的な指導を目指し、指導法を深化させる必要がある。また、生徒に基本的生活習慣を定着させるとともに、しっかりした規範意識をもたせ、生徒の授業に取り組む姿勢の改善や学習意欲の向上を図っていくことが必要である。

**中 期 目 標****【視点 学力の向上】**

- 平成 28 年度の全国学力・学習状況調査における知識に関する問題の正答率 7 割以上の生徒の割合を、平成 24 年度より 3 ポイント向上させる。（カリキュラム改革関連）
- 学力診断テストにおける正答率 3 割以下の生徒を同一の母集団で比較し、いずれの学年も平成 24 年度より 3 ポイント減少させる。（カリキュラム改革関連）

**【視点 道徳心・社会性の育成】**

- 平成 28 年度の全国学力・学習状況調査における「近所の人に会ったときは、あいさつをしている」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える生徒の割合を 90 % 以上にする。（カリキュラム改革関連）
- 平成 28 年度の全国学力・学習状況調査における「自分にはよいところがあると思いますか」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える生徒の割合を平成 24 年度より 4 % 向上させる。（カリキュラム改革関連）
- 平成 27 年度の生徒アンケートにおける「私は、学校内のルール、社会のルールを自然と守っている」と答える生徒の割合を平成 25 年度からの 3 年間で 5 % 向上させる。（マネジメント改革関連）

**【視点 健康・体力の保持増進】**

- 平成 28 年度の全国体力・運動能力、運動習慣調査における各学年の合計得点を、平成 24 年度より 3 ポイント向上させる。（カリキュラム改革関連）
- 全国学力・学習状況調査の「朝食を毎日食べていますか」の項目について、「食べていない（あまり食べていない）」と答えた生徒の割合を平成 28 年度調査において 10 % 以下にする。（カリキュラム改革関連）

## 2 中期目標の達成に向けた年度目標

### 【視点 学力の向上】

- ①平成27年度の全国学力・学習状況調査における知識に関する問題の正答率7割以上の生徒の割合を、平成25年度より1ポイント向上させる。(カリキュラム改革関連)
- ②学力診断テストにおける正答率3割以下の生徒を同一の母集団で比較し、いずれの学年も平成25年度より1ポイント減少させる。(カリキュラム改革関連)

### 【視点 道徳心・社会性の育成】

- ①平成26年度の生徒アンケートにおける「私はすすんでいきつをしている」の項目について、「よく当てはまる(大体当てはまる)」と答える生徒の割合を平成25年度より2%向上させる。(カリキュラム改革関連)
- ②平成27年度の全国学力・学習状況調査における「自分にはよいところがあると思いますか」の項目について、「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える生徒の割合を平成25年度より2%向上させる。(カリキュラム改革関連)
- ③平成26年度の生徒アンケートにおける「私は、学校内のルール、社会のルールを自然と守っている」と答える生徒の割合を平成25年度より2%向上させる。(マネジメント改革関連)

### 【視点 健康・体力の保持増進】

- ①平成27年度の全国体力・運動能力、運動習慣調査における各学年の合計得点を、大阪市平均を上回るくらいまで向上させる。(カリキュラム改革関連)
- ②全国学力・学習状況調査の「朝食を毎日食べていますか」の項目について、「食べていない(あまり食べていない)」と答えた生徒の割合を平成27年度調査において前年度より減少させる。(カリキュラム改革関連)

### 3 本年度の自己評価結果の総括

#### 【視点 学力の向上】

平成26年度の全国学力・学習状況調査における知識に関する問題の正答率は、国語については平均が7割台後半となり、平成27年度の調査（4月実施）も概ね目標を達成できる見通しである。数学については6割台後半となっており、あと一歩のところであった。昨年度より向上しており、本年度の取り組みの効果により目標を達成できることが期待できる。

学習に対する興味、理解度については、国語・数学において、「勉強が好きだ」「授業の内容がよくわかる」と回答した生徒が全国平均を上回っており、各教科の指導法や授業における創意工夫や努力の賜物と考えられる。しかし、結果に結びついていない場合もあり、学習内容の定着に向けて一層取り組む必要がある。習熟度別少人数授業やTT授業の実施、指導内容の精選や指導方法の工夫などにより、今後も生徒が明確な学習意欲を持って授業に参加し、学力の定着が図れるよう取り組みをさらに進める。

#### 【視点 道徳心・社会性の育成】

生徒へのアンケートの結果では、進んでいさつをしている（どちらかといえばしている）と答えた生徒は約75%であった。また、学校内のルール、社会のルールを自然と守っている（どちらかといえば守っている）と答えた生徒も約75%で昨年とほぼ同じであった。目標には届かなかつたが、道徳や学活の時間での指導や「朝のいさつ運動」や「おそうじ隊」などの取り組み、生徒会・部活動を中心にいさつ・正しい言葉遣いを身につけさせるなど、日々の学校生活を通して、全教職員が細やかに生徒に対応し、道徳教育の推進に努めている。これまでの取り組みをさらに進めながら、本年度は実施できなかった職業講話を実施するなどの取り組みを新たに実施していく。

#### 【視点 健康・体力の保持増進】

平成26年度の全国体力・運動能力、運動習慣調査における2年生の合計得点は、男女とも平成25年度から上昇し、全国平均を上回るまで向上した。本校の取り組みにより、運動の楽しさやその効果を伝えることについては一定の成果があらわれ、運動やスポーツについて関心を持つ生徒が増えた。小学校と連携して、引き続き運動の楽しさや効果を伝える取り組みを進め、運動やスポーツに対する意識を高めるとともに、実際に運動する環境を整える取り組みを行なう。

また、朝食を食べていない（あまり食べていない）と答えた生徒の割合は、平成26年度の全国体力・運動能力、運動習慣調査においては平成25年度から若干増加した。しかしながら、朝食を毎日食べていると回答した生徒は平成25年度から約10ポイント増加している。引き続き授業や学活等で、朝食の大切さについて考えさせるとともに、早寝早起き朝ごはんといった基本的生活習慣を身につけさせる取り組みを行なう。

## 大阪市立矢田西中学校 平成26年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【視点 学力の向上】</p> <p>①平成27年度の全国学力・学習状況調査における知識に関する問題の正答率7割以上の生徒の割合を、平成25年度より1ポイント向上させる。(カリキュラム改革関連)</p> <p>②学力診断テストにおける正答率3割以下の生徒を同一の母集団で比較し、いずれの学年も平成25年度より1ポイント減少させる。(カリキュラム改革関連)</p>	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【区分 言語力や論理的思考能力の育成】</p> <p>言語力向上、表現力育成のために、読書活動の推進に取り組む。(カリキュラム改革関連)</p> <p>指標 読書習慣の育成のため、また教科学習・総合学習における情報センターとしての機能を十分に果たせるように、学校図書館を整備する。</p>	B
<p>取組内容②【区分 授業研究を伴う校内研修の充実】</p> <p>指導法の改善に向けて、授業研究に積極的に取り組む。(カリキュラム改革関連・マネジメント改革関連)</p> <p>指標 研究授業を全教員1回以上実施する。</p>	B
<p>取組内容③【区分 小中一貫した教育の推進】</p> <p>小中一貫したカリキュラムの点検・改善に取り組む。(カリキュラム改革関連)</p> <p>指標 小中一貫教育実行委員会を年間2回開催し、点検・改善を行なう。</p>	B
<p>取組内容④-1【区分 各教科（国語）】</p> <p>言語力向上の取り組みを行なう。(カリキュラム改革関連)</p> <p>指標 自分の思いを表現し、文章化できるように作文指導を適宜実施する。</p>	B
<p>取組内容④-2【区分 各教科（社会）】</p> <p>基礎学力の定着を図る。(カリキュラム改革関連)</p> <p>指標 地図や資料、日々のニュースや新聞などを活用し、地理・歴史・公民の学習を進める。</p>	B
<p>取組内容④-3【区分 各教科（数学）】</p> <p>個に応じた指導により、基礎学力の定着を図る。(カリキュラム改革関連)</p> <p>指標 補助教材の活用や問題の選別により、個に応じた指導を進める。</p>	B
<p>取組内容④-4【区分 各教科（理科）】</p> <p>基礎学力の定着を図る。(カリキュラム改革関連)</p> <p>指標 実験方法の創意工夫、理科室の整備及び実験器具の充実、教材の精選に努める。</p>	B

取組内容④-5【区分 各教科（音楽）】 音楽活動の基礎的な能力の伸長を図る。（カリキュラム改革関連）	B
指標 音楽を表現するための基本的事項の習熟とその定着を図り、また合唱・合奏・鑑賞を多く取り入れる。	
取組内容④-6【区分 各教科（美術）】 美術の基礎的能力の伸長を図る。（カリキュラム改革関連）	B
指標 形や色彩などによる表現の技能を身につけさせ、意図に応じて創意工夫し美しく表現する能力を育てる指導を進める。	
取組内容④-7【区分 各教科（技術・家庭）】 基礎的な知識や基本的な技術の習得を図る。（カリキュラム改革関連）	B
指標 実習や製作を必要に応じて取り入れる。	
取組内容④-8【区分 各教科（英語）】 基礎学力の定着を図る。（グローバル化改革関連）	B
指標 T.T・少人数授業による細やかな指導により「聞く・話す・読む・書く」の4技能を重点的に伸ばす。	

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
取組内容① 蔵書の整理・データ化を行なった。図書室を整備し、図書室活動の活性化に努めた。	
取組内容② 指導案の作成や研究協議の形態に工夫をして、全員の授業参観を行ないやすくした。	
取組内容③ 小中一貫教育実行委員会を2回開催し、活発な意見の交換を行なった。様々な教育活動全般についての連携が図られた。（体験授業、小学生の体育大会見学、クラブ体験など）	
取組内容④-1 3年生は個別に作文指導を実施した。1、2年生については、短作文や文章の要約などの作文に至るまでの取り組みを行なった。	
取組内容④-2 日本や世界の情勢や各地域の生活・政治・文化を学習した。 また、社会の授業に関連する語句を重点に学習し、基礎学力の定着を行なった。	
取組内容④-3 T.T・机間巡視・放課後指導を積極的に行った。また、生徒の学力にあわせてこまめに宿題をだすなどして基礎学力の定着を図った。	
取組内容④-4 実験を工夫することで、基礎・基本をより理解しやすくする授業に努めた。	
取組内容④-5 基礎的な演奏技術の定着を図るために机間巡視・放課後指導を行なっている。またクラス合奏・合唱を多く取り入れている。	
取組内容④-6 それぞれに異なる技能と創意の伸長のために、机間指導でこまめに個人への指導を行なった。	
取組内容④-7 各学年、実習と座学をバランス良く取り入れ、計画的に授業を進めた。	
取組内容④-8 単語テストやプリント課題を繰り返し実施し、基礎学力の定着を図ってきた。C-netとの会話やグループ活動を通して、英語運用能力を高めてきた。4技能をバランスよく伸ばそうと計画を立ててきたが、「話す」能力については十分な時間がとれなかつた。スピーチや発表などに時間をとり、効果が得られるよう工夫していく。	

## 次年度への改善点

- 取組内容① 蔵書のデータ化を行いバーコードを使用しての整理を行い、更に読書活動の推進に取り組むよう努める予定である。
- 取組内容② 設定期間が少し短く、行事などの取り組みが多い中で実施していたので、期間の融通をもう少しできるようにしたい。
- 取組内容③ 小中一貫教育実行委員会を有意義なものにするため、具体的な内容を決める。小学生の文化祭見学をどう進めていくか。
- 取組内容④-1 語彙力の向上を図るために、読書指導を工夫する必要がある。
- 取組内容④-2 地理・歴史の授業の切り替えをスムーズにおこなえるように計画性をもって授業を進めていく。
- 取組内容④-3 生徒一人ひとりが積極的に学習に取り組むように指導していく必要がある。
- 取組内容④-4 実験器具の点検・整備を計画的に行う必要がある。
- 取組内容④-5 クラス合奏・合唱などを通して、更に個人の演奏技能・創意も伸ばしていくように努める。
- 取組内容④-6 継続して個人を大切にした指導は行い、技能・創意をさらに伸ばしていくような授業づくりに努める。
- 取組内容④-7 生活に密着した教科という特性を活かし、生きていく上で必要な技術と知識を習得出来るように努めていく。
- 取組内容④-8
- ・「話す」能力を高める時間を増やしていく。
  - ・C-netとの会話の時間を増やし、一人あたりの会話の時間を確保していく。また、その能力をはかるよりよい方法を考えていく。
  - ・T.T・少人数授業のよりよい体制を考えていく。

## 大阪市立矢田西中学校 平成26年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<b>【視点 道徳心・社会性の育成】</b> ①平成26年度の生徒アンケートにおける「私はすすんでいさつをしている」の項目について、「よく当てはまる(大体当てはまる)」と答える生徒の割合を平成25年度より2%向上させる。(カリキュラム改革関連)	
②平成27年度の全国学力・学習状況調査における「自分にはよいところがあると思いますか」の項目について、「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える生徒の割合を平成25年度より2%向上させる。(カリキュラム改革関連)	B
③平成26年度の生徒アンケートにおける「私は、学校内のルール、社会のルールを自然と守っている」と答える生徒の割合を平成25年度より2%向上させる。(マネジメント改革関連)	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<b>取組内容①【区分 人権を尊重する教育の推進】</b> 互いの違いを認め合い、人権尊重の精神と態度を育てる教育を推進する。また、参加型や体験型の学習内容・方法を取り入れ、感性を高める指導を行なう。(カリキュラム改革関連)	B
<b>指標</b> 年に1回芸術鑑賞行事を実施し、豊かな情操の育成につなげる。	
<b>取組内容②【区分 道徳教育の推進】</b> 規範意識の醸成、また正しい人間関係の構築に向けて、計画的に取り組む。(カリキュラム改革関連)	B
<b>指標</b> 道徳の時間を中心として、すべての場面で生徒が物事の善悪を判断できるよう指導を行なう。また、部活動を中心として、あいさつ・正しい言葉遣いを身につけさせる。	
<b>取組内容③【区分 問題行動への対応】</b> 問題行動の未然防止に向けて取り組む。(カリキュラム改革関連・学校サポート改革関連)	B
<b>指標</b> 各学年で防犯教育を年1回実施する。	
<b>取組内容④【区分 不登校への対応】</b> 不登校生徒を減らす取り組みを進める。(カリキュラム改革関連)	B
<b>指標</b> 月に1回程度、教職員全体で情報交換を行なう。	
<b>取組内容⑤【区分 特別支援教育の充実】</b> 障がいのある子どもと共に生きる意識の育成や共に成長することのできる集団を育てる取り組みを行なう。(カリキュラム改革関連)	B
<b>指標</b> 特別支援教育についての校内委員会を毎月1回開き、情報交換を行なう。	

取組内容⑥【区分 特別活動】 学校生活の問題をみんなで考え、正しく解決できる生徒会を育てる。(カリキュラム改革関連) 指標 生徒会組織・専門委員会組織の自主的活動の育成を図る。	A
取組内容⑦【区分 進路指導】 生徒一人一人が、将来の生き方を考える力を養う取り組みを行なう。(カリキュラム改革関連) 指標 職業調べ・職業講話等を学年に応じて実施する。	B
取組内容⑧【区分 国際社会に生きる子どもの教育の推進】 子どもたちが自らの民族の歴史や文化・伝統を尊重し、自己の確立を図ることで、多様な文化を理解し、共に生きていく国際人としての資質や能力の育成に努める。(カリキュラム改革関連・グローバル化改革関連) 指標 日本の文化および韓国・朝鮮の文化に触れる取り組みを各学年1回実施する。	B
取組内容⑨【区分 学校・家庭・地域の連携の推進】 生活指導上の問題の解消に向けて、家庭や地域との連携を推進する。(カリキュラム改革関連) (ガバナンス改革関連) 指標 毎月1回、青少年指導員との合同巡回を行なう。	A
取組内容⑩【区分 防災教育の推進】 子どもたちの防災意識の向上に努める。(ガバナンス改革関連) 指標 地域と協力して、防災についての体験活動等を実施する。	A

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
取組内容① 人権尊重の精神と態度を育てる様々な人権教育を行なった。	
取組内容② 道徳の年間計画に基づいて各学年に応じた道徳教育を進めた。	
取組内容③ 1学期末に、情報モラル啓発事業「e-ネットキャラバン」を活用し、子ども達をネットの被害者・加害者としないための啓発活動を行なった。その結果、ネットに関する問題行動の未然防止にもつながった。	
取組内容④ 学年・担任を中心に様々な取り組みを行ない、特に学年間では情報交換を密に行なってきた。その結果、不登校状態が改善されてきた例も見られた。	
取組内容⑤ 校内委員会で生徒の状況や課題について話し合い、共通理解を図ることができた。各学年に応じた特別支援教育を実施した。	
取組内容⑥ 校内の生徒会活動を生徒中心に運営することができた。今後も校内行事や地域の活動に積極的に参加していく予定である。	
取組内容⑦ 職業調べを1年で実施した。2年生では、大きく変わる制度変更を、わかる範囲で伝えることで、意欲を高めた。3年生については、学校ごとの体験授業への参加や説明会に参加させることで、個々の進路についてしっかり考えを固めた。	
取組内容⑧ 1学期に3年生でハングル講座と歴史を学び、2学期に2年生で楽器体験、3学期に1年生が遊び体験を行なった。また、音楽の授業で琴についての授業を行なった。	
取組内容⑨ 青少年指導員の方と定期的に夜間合同巡回を行なってきた。	
取組内容⑩ 9月6日(土)に防災訓練を実施した。参加いただいた地域の防災リーダーや区役所の皆さん、東住吉消防署の署員の方々からご指導をいただき、消火・救助・救命について学習した。	

### 次年度への改善点

- 取組内容① さまざまな人権教育を、具体的な年間計画に基づいて進めていく。
- 取組内容② 道徳教育の時間の確保する。道徳教育を具体的な年間計画に基づいて進めていく。
- 取組内容③ ネット関連だけでなく、他にも非行防止教室など関係諸機関との連携を図り、取り組みを進めていく。
- 取組内容④ 定期的な情報交換の場を設け、情報を共有し取り組みを進める。
- 取組内容⑤ 特別支援教育の実施時期と学年に応じた特別支援教育を検討していく。
- 取組内容⑥ 生徒会自身から、さらに積極的に意見が出るような雰囲気作りを進めていく。
- 取組内容⑦ キャリア教育の推進という観点では取り組みが不足していたと思う。職業体験学習や、職業講話などの取り組みも進めていく必要がある。
- 取組内容⑧ 各学年とも引き続き計画を立て、韓国・朝鮮の歴史や文化・伝統への理解を深めていく。また、多様な文化にふれる機会も増やしていきたい。
- 取組内容⑨ 引き続き、地域の青少年指導員、保護司会等の連携、情報交換を行なう。
- 取組内容⑩ 夏休み明けすぐの実施であり、関係機関との事前連絡があまりスムーズにいかなかった。しっかりと計画・連絡協議ができるようにしたい。

## 大阪市立矢田西中学校 平成26年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p><b>【視点 健康・体力の保持増進】</b></p> <p>①平成27年度の全国体力・運動能力、運動習慣調査における各学年の合計得点を、大阪市平均を上回るくらいまで向上させる。(カリキュラム改革関連)</p> <p>②全国学力・学習状況調査の「朝食を毎日食べていますか」の項目について、「食べていない(あまり食べていない)」と答えた生徒の割合を平成27年度調査において前年度より減少させる。(カリキュラム改革関連)</p>	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p><b>取組内容①【区分 体育科の授業の充実】</b></p> <p>年間指導計画に沿って、指導を進め、体力の向上を図る。(カリキュラム改革関連)</p>	B
<p><b>指標 スポーツテストを年1回実施し、各個人の体力、運動能力を把握させる。</b></p>	
<p><b>取組内容②【区分 健康な生活習慣の確立】</b></p> <p>健康な学校生活が送れるように計画的に指導を進める。(カリキュラム改革関連)</p>	B
<p><b>指標 「保健だより」等を通じて、積極的に情報発信に努める。</b></p>	
<p><b>取組内容③【区分 食育】</b></p> <p>食に関する興味・関心を高めるよう計画的に指導を進める。(カリキュラム改革関連)</p>	A
<p><b>指標 食育に関する指導を各学年で年間1回取組む。</b></p>	
<p><b>取組内容④【区分 健康に関する現代的課題への対応】</b></p> <p>健康な学校生活が送れるように計画的に指導を進める。(カリキュラム改革関連・マネジメント改革関連)</p>	A
<p><b>指標 喫煙・飲酒・薬物乱用の害について、各学年で年間1回取り組む。</b></p>	

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析
<p><b>取組内容①</b> 1学期に全学年でスポーツテストを実施し、各生徒に結果を返し、各個人の体力・運動能力を把握させている。</p>
<p><b>取組内容②</b> 保健だよりを中心に情報発信につとめ、保健指導に活用した。</p>
<p><b>取組内容③</b> 1年「朝食」「朝食作り」、2年「お弁当」「お弁当作り」、3年「味覚実験」「夜食作り」の指導を行なった。全校生徒に「食育だより」の発行をした。</p>
<p><b>取組内容④</b> 喫煙、飲酒・薬物乱用の害について、各学年で取り組んだ。学年の協力によりスムーズに指導ができた。</p>

次年度への改善点

取組内容① 安全・健康に留意しながら、さらに体力の向上をはかる。

取組内容② 生徒の興味・関心を高めるようさらに工夫し、保健指導の効果アップにつなげたい。

取組内容③ 授業の時間確保が難しいので、早めに計画実践していく必要がある。

取組内容④ 今後も継続して指導に取り組んでいく。

## 平成26年度 学校関係者評価報告書

大阪市立矢田西中学校 学校協議会

## 1 総括についての評価

- ・生徒・保護者アンケートの結果や学校の状況視察、保護者・地域の意見を総合すると、現在の学校の教育活動に対して肯定的な意見が多く、一定の成果が得られていると確認できる。
- ・特に生活指導面については、肯定的な意見が8割以上を占めており、落ち着いて学習できる環境になっているといえる。
- ・学習面については、理解度が結果に結びついていない場合もあり、学習内容の定着に向けたさらなる創意工夫や改善することが課題である。
- ・今後、さらに教育活動や教育環境の改善、地域とのいっそうの連携、小中の一貫した教育を推し進め、地域に信頼される学校にする必要がある。

## 2 年度目標ごとの評価

## 年度目標：【視点 学力の向上】

- ①平成26年度の全国学力・学習状況調査における知識に関する問題の正答率7割以上の生徒の割合を、平成24年度より1ポイント向上させる。
- ②学力診断テストにおける正答率3割以下の生徒を同一の母集団で比較し、いずれの学年も平成24年度より1ポイント減少させる。

- ・平成26年度の全国学力・学習状況調査において、国語・数学とも全科目が大阪市平均を上回り、全国平均と同じレベルになっている科目もあった。学校が落ち着いて学習できる環境にあり、日頃の学習活動について一定の成果が表われたものと考える。
- ・習熟度別少人数授業やTT授業の実施、指導内容の精選や指導方法の工夫などにより、基礎学力の定着に努め、成果を上げているものもある。より一層の向上を望んでいる。
- ・授業においては、生徒が意見を発表したり、お互いの考えを話し合う場面をつくるなど、生徒の学習する意欲を高める工夫をしており、これが学力面につながることを期待する。
- ・研究授業などの研修を計画的に実施し、教員の授業力を高める取り組みは評価できる。

## 年度目標：【視点 道徳心・社会性の育成】

- ①平成26年度の全国学力・学習状況調査における「近所の人に会ったときは、あいさつをしている」の項目について、「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える生徒の割合を1%向上させる。
- ②平成26年度の全国学力・学習状況調査における「自分にはよいところがあると思いますか」の項目について、「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える生徒の割合を平成24年度より1.5%向上させる。

③平成25年度の生徒アンケートにおける「私は、学校内のルール、社会のルールを自然と守っている」と答える生徒の割合を平成24年度より2%向上させる。

- ・「あいさつ」については、日々の学校生活を通した指導により、きちんとできる生徒が増えてきたことには一定の評価ができる。ただ、校外では、まだ不十分な生徒もいる。更なる指導をお願いしたい。
- ・教育活動のあらゆる場面で、人権教育に取り組んでいるが、生徒に十分な人権感覚が身についているとはいはず、さらに推し進めていく必要がある。また、感謝の大切さを伝える教育をお願いしたい。
- ・生徒会や部活動の活性化が図られ、それとともに生徒の地域行事への参加も増加している。さらに、積極的な参加を期待している。

#### 【視点 健康・体力の保持増進】

①平成26年度の全国体力・運動能力、運動習慣調査における各学年の合計得点を、平成24年度より1ポイント向上させる。(カリキュラム改革関連)

②全国学力・学習状況調査の「朝食を毎日食べていますか」の項目について、「食べていない(あまり食べていない)」と答えた生徒の割合を平成26年度調査において前年度より減少させる。(カリキュラム改革関連)

- ・運動やスポーツに対する意識を高めることには成果が表われており、実際の体力・運動能力も向上してきている。より一層、運動する環境を整えるようお願いする。
- ・食育の推進などは、学校の特色ある教育として定着していると思われ、評価できる。
- ・喫煙・飲酒・薬物乱用の防止についての指導は、継続して実施されている。これからも効果が上がるよう毎年実施してほしい。
- ・中学校給食について、生徒には不評であると聞く。旧給食室や小学校の施設を利用するなど、できる限りより良いものにしていくように努めてほしい。

### 3 今後の学校運営についての意見

- ・体育大会、文化祭、学年行事等で、生徒が主体的に活動するプログラムを積極的に取り入れ、高い評価を得ている。
- ・学校ホームページや矢田西中だよりなどをを利用して学校公開に努めているが、さらに地域との連携を進めていく必要がある。
- ・一小一中の利点を生かして、小中連携をさらに推し進めていかなければならない。
- ・読書習慣の定着と図書館の有効活用について、学校元気アップ事業とも連携した取り組みを始めていると聞いている。継続して読書活動の充実に努めてほしい。

## 全国学力・学習状況調査の結果から明らかになった現状

## 1 平成25年度の調査結果の概要

	国語		算数・数学	
	A問題	B問題	A問題	B問題
平均正答率(%)	69.2	53.5	52.7	29.1
平均正答数(問)	22.1／32	6.4／12	19.0／36	4.7／16
平均無解答率(%)	5.5	8.8	14.2	31.6

## 2 自校の取組の成果と課題

調査項目		成果と課題
国語	A問題【主として「知識」に関する問題】	「書くこと」については、大阪市の平均正答率を1.2ポイント上回っているが、全国の平均正答率を6ポイント下回った。その他の「話すこと・聞くこと」「読むこと」「国語の特質に関する事項」については、いずれも大阪市平均を3.5～4.1ポイント下回り、全国平均を7～8ポイント程度下回っている。「書くこと」については、少し成果が上がっているが、その他の領域では成果があまり上がっていない。今後も指導法の改善を中心とした取り組みを進めていく必要がある。
	B問題【主として「活用」に関する問題】	全ての領域で大阪市平均を6～17ポイント程度下回っており、全国平均を12～28ポイント程度下回っている。特に「国語の特質に関する事項」では、27.9ポイントという大きな隔たりがある。今後、しっかり検討し指導の工夫を重ねていく必要がある。また、表現力やコミュニケーション能力等の「活用」力を高めるための学習指導も進めていきたい。
数学	A問題【主として「知識」に関する問題】	全ての領域で、大阪市平均を3～9ポイント程度下回っており、全国平均を7～13ポイント程度下回っている。これについては、中学校入学時の学力差の課題が大きく影響していることは否めない。今後も、校区小学校との密接な連携の元、基礎学力の定着と個々の生徒の学力に応じた指導法の改善と同時に家庭での学習習慣の定着を進めたい。
	B問題【主として「活用」に関する問題】	全ての領域において、大阪市平均を1～12ポイント程度下回っており、全国平均を5～11ポイント程度下回っている。「図形」領域では、活用力に改善が進んでいると考える。一方、「数と式」「関数」「資料の活用」は、差があり、指導法の改善が急がれる。数学全般に云えることであるが、個々の生徒間の学力差が大きく、その克服のためには、定着度に応じた教材の開発を中心とする指導・支援の充実が最大の課題と考える。
児童生徒質問紙	<p>《国語》</p> <p>「国語に関する生徒質問（52・54・57・59番）」の内52・54番の結果から、国語の学習に対する興味、理解度は、大阪市はおろか、全国を大きく上回っている。これは、教科指導の努力の賜物と考えられ、大変素晴らしいことである。</p>	

	<p><b>《数学》</b></p> <p>「数学に関する生徒質問（62・64・67・70番）」の結果から、数学の学習に対する興味、理解度は、大阪市平均を上回り、全国平均とほぼ同じか、64番のように、項目によれば上回っている部分もある。これも、教科指導の努力の賜物と考えられ、大変素晴らしいことである。</p> <p><b>《基本的生活習慣・自尊感情・規範意識》</b></p> <p>「朝食を毎日食べている」生徒は、「どちらかといえば、している」まで含めると、大阪市平均を上回り、全国平均にはほぼ匹敵する。しかし、「毎日、同じくらいの時刻に寝ている・起きている」生徒は、大阪市平均・全国平均を下回っている。現実には、個人差が大きく、改善に向けての大きな課題である。課題の克服のためには、保護者の理解が当然のことながら必要となる。そのためにも、保護者との連携を一層深めたい。</p> <p>「自尊感情」「規範意識」については、大阪市平均・全国平均を下回っており、取り組みの工夫が求められるところである。</p> <p><b>《家庭学習・読書・学びの質の改善：言語力の育成》</b></p> <p>「家庭学習」の項目は、いずれも大阪市平均・全国平均を下回っている。家庭学習の習慣化に向けた、保護者との連携を一層深めていく必要がある。</p> <p>「読書」については、大阪市平均・全国平均を下回っている。図書館の整備などを含め、より一層読書に親しむ環境を作っていく必要がある。</p> <p>「言語力の育成」に関しては、「生徒間での話し合い活動をよく行っている」との回答が、全国平均を下回っているが、大阪市平均を上回っている。この活動も含め、言語力の育成に向けた取り組みが、一層求められる。</p>
学校質問紙	<p>5～6年前に「荒れ」の状態に陥り、学力・教科指導どころではなくなり、後追い指導に翻弄された実態があった。当然、保護者や地域からの信頼は失われ、不安や不信が高まる一方であったが、「荒れの克服」を目指し、全教職員が対応し続けた結果、一定の落ち着いた状況に確実に戻って来た。</p> <p>このような学習における安定した環境を維持するためにも、全教職員が「授業規律」に対しての一層の共通理解を深め、習熟度別少人数授業をはじめ、教材・教具の開発などの指導法の改善に向けた取り組みを深化させていきたい。あわせて、現在行っている研究授業のさらなる充実も図りたい。また、近年、進路指導の充実による結果も出てきており、細かな対応の結果、生徒はもとより保護者の意識も肯定的に大きく変化している。</p>
その他	<p>本校のような小規模校にとって、定数としての教員の配置は極めて少ないものであり、指導法の改善を図る上でも、大きな要因となってくる。一方、「加配」の削減が着実に進んでおり、その意味でも小規模校における加配についての検討を進めていただきたい。学力を定着させ、一定の安定した学習環境を維持するために教員の力は必要であり、その意味でも教育委員会のご高配とご英断をお願いしたい。</p>

## 全国体力・運動能力、運動習慣等調査等の結果から明らかになった現状

## 1 平成25年度の調査結果の概要

	種目別平均								合計 得点	
	握力 (kg)	上体起こし (回)	長座体前屈 (cm)	反復横跳び (回)	持久走 (秒)	20mシャ トルラン (回)	50m走 (秒)	立ち幅跳び (cm)		
男子	26.93	27.42	33.78	46.56	434.11	81.62	8.30	184.93	23.19	36.92
女子	25.87	22.13	46.68	43.32	309.05	55.45	9.30	163.09	16.22	49.41

## 2 自校の取組の成果と課題

成果と課題
男子では、体力合計点において、全国平均に比べて4.8ポイント低く、大阪市平均からも3.3ポイント下回っている。特に、長座体前屈や持久走、立ち幅跳びでその差が大きい。ボール投げだけが上回っている状況であった。
女子では、逆に、体力合計点で全国平均を1ポイント、大阪市平均を2.4ポイント上回っている。ただ、持久走やシャトルラン、50m走といった走力に関する種目が若干弱いようである。
学校全体では、これまでの取り組みの成果が、徐々に表れてきている。女子については、合計点がここ数年ずっと全国平均を上回っており、着実に体力は向上してきている。男子については、合計点の低い生徒が減少し、一定の成果が挙げられたが、得点上位の生徒も減少しており、全体の成績が下がった。より一層の取り組みが必要である。
今後も、これまでの取り組みである、運動の奨励、球技大会や駅伝大会の開催などに引き続き取り組むとともに、体育の授業や部活動などで、これまで以上に柔軟運動や筋力トレーニングを行ない、基礎体力のアップを図る。また、朝食と運動能力が密接に関係していることから、食育についても取り組んでいく。

## 児童生徒等の問題行動等生徒指導上の諸問題に関する調査の結果から明らかになった現状

## 1 平成25年度の調査結果の概要

区分	結果
① 力行為の発生件数(件)	
② じめの認知件数(件)	
③ じめの現在の状況で「解消しているもの」の件数の割合(%)	
④ 小・中学校における不登校児童生徒数(人)	
⑤ 高等学校における長期欠席生徒数(人)	
⑥ 高等学校における中途退学者数(人)	

## 2 自校の取組の成果と課題

区分	成果と課題
①暴力行為の状況等	教職員の一致団結した指導の下で、ここ2~3年落ち着いた状況であり、校内での暴力行為は、全く起こっていない。ただ油断大敵であるので、しっかり取り組みを進める必要がある。
②いじめの状況等	上と同様、落ち着いた状況の中で、いじめと認められる事案も全く発生していない。日々、生徒理解のために努力し、教育相談を有効活用する等、情報が常に入りやすいよう努めるとともに、人権を尊重する教育を進める必要がある。
③小・中学校における不登校の状況等	休みがちな生徒が、若干ながらいるが、個々の理由や状態に応じて対応しており、完全不登校の状態の生徒はいない。今後も、担任だけでなく、組織的に対応をしていく必要がある。
④高等学校における長期欠席の状況等	
⑤高等学校における中途退学の状況等	

※ 両表とも、小学校・中学校は①②③の項目、高等学校は①②④⑤の項目、特別支援学校は学校の状況に応じた項目について、それぞれ記入すること